

新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（神戸大学）

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

令和2年4月1日に、担当理事、副学長を含む「多様なメディアを高度に利用した授業の在り方検討WG」を設置し、全学的な観点から「多様なメディアを高度に利用した授業を広く実施するための戦略及びその条件」を検討し、様々な提言を行った。本WGを発展させ、令和3年1月27日に全学教務委員会の下に遠隔授業実施専門委員会を設置し、遠隔授業実施に関する事項について検討を行っている。

遠隔授業のためのポータルサイト「神戸大学レクチャーハブ」を令和2年4月に開設し、「学生向け情報」「教員向け情報」等のページでそれぞれ遠隔授業に関する情報を集約し発信している。

遠隔授業に関する質問や相談、開講・受講時に生じたトラブル等に対して、電話又はメールにより対応するために、学生・教員に対するサポート窓口を令和2年4月に設置し対応している。

遠隔授業のための研修会として、情報基盤センターによる研修会（対面・オンラインの併用開催／参加者数：約700名）をはじめとして、令和2年4月～令和3年9月の間に学内で計78件のFD活動を実施した。また、本学の大学教育推進機構が主催するオンラインによるFD研修会については、Zoomのクラウド録画機能を活用し、当日参加できなかった教員も後日閲覧ができるよう動画を共有している。（学内限定）

遠隔授業のためのツールとして、令和2年4月より、Webex（高等教育機関向け特別支援プログラム／教職員対象：令和2年10月まで）やGoogle Workspace for Education（教職員・学生）のアカウントを付与したほか、令和2年10月にはZoomの全学ライセンス（教職員対象）を導入し、活用を促進している。

アクセス数増加による突然のサーバダウンのリスクを軽減するため、令和2年4月に情報基盤センターにおいて神戸大学LMS（BEEF）のサーバを増強した。

遠隔授業においては以下のような取組を行っている。

- ・遠隔授業のうち数回を対面で行ったり、オンラインを併用しつつ学生をグループに分けて数回に一度対面授業を受けられるようにした。
- ・オンデマンド型授業においては、チャットツールやLMSのメッセージ機能、Web会議システム等を利用して授業時間内外に質問を受け付けられるようにしたほか、講義資料は音声付パワーポイントや動画資料の提供も行った。
- ・リアルタイム型授業においては、授業時間中にWeb会議システムのチャット機能や投票機能等を利用して小テストや質疑応答を行うことで学生の反応を確認するようにしたほか、Web会議システムのブレイクアウト機能を用いてグループで討論や課題に取り組む機会を設けた。

学生からの意見聴取（アンケート）により、以下のとおり授業の実施状況を点検している。

- ・令和2年6月～9月に実施した第1・2クォーターの「授業振り返りアンケート」等において、遠隔授業に係る学生の理解の状況や学修時間等を確認したところ、前年度同期と比較すると、授業理解度（72.6%から80.7%に増加）、シラバスの到達目標の達成度（69.1%から76.3%に増加）において伸びがみられ、1週間あたりの学修時間が12.2時間から15.9時間に増加した。
- ・令和2年11月～2月に実施した第3・4クォーターの「授業振り返りアンケート」についても同様に点検したところ、前年度同期と比較すると、授業理解度（71.5%から79.8%に増加）、シラバスの到達目標の達成度（69.4%から76.8%に増加）において伸びがみられた。

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

経済的事情により自宅にネット環境を構築すること等が困難な学部生及び大学院生に対し、ルーターやノートパソコンを貸し出している。

(貸与人数)

・ルーター

令和2年度

[前期]学部生35名、大学院生21名 [後期]学部生29名、大学院生33名

令和3年度

[前期]学部生19名、大学院生30名 [後期]学部生17名、大学院生32名

・ノートPC

令和2年度

[前期]学部生 8名、大学院生 4名 [後期]学部生 9名、大学院生 8名

令和3年度

[前期]学部生 3名、大学院生 8名 [後期]学部生 4名、大学院生 7名

学内の無線LANアクセスポイント利用のために、情報基盤センター及び各学部・研究科の教室等を開放した。また、教室及びラーニングコモンスの無線LANアクセスポイントの増設を行った。

令和2年12月に実施した「学生・教職員による教育懇談会」において、新入生から4月の履修登録に苦勞した声が多数寄せられたことや、対面授業から遠隔授業に切り替わった際への準備なども考慮し、令和3年度は、学事暦を変更し、3日間の対面によるガイダンス期間を設けた。その結果、令和3年度の入学生を対象に行った入学時アンケートで、オリエンテーション・ガイダンスの内容がわかりやすかったかとの質問に対し、65.4%の学生が肯定的な回答を行った。令和元年度が56.4%、令和2年度が53.9%であったのに比べ一定の改善があったように思われる。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で生活に困窮する学生に対して、緊急的に支援が必要であるとして、寄附金を原資に申請のあった学生に対し、給付金を支給した。

農学研究科において、日本国外から新規渡日し入学する留学生の新型コロナウイルス感染症に係る入国前後の経済的負担を軽減することを目的とした支援制度を実施した。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、本学主催プログラムにより海外派遣・留学中でありながら、本学の要請等により急遽帰国することになった派遣学生等のうち、追加費用の支払いを余儀なくされたものに対し、寄附金を原資として見舞金を支給した。